

東京秋工会顧問 三浦満夫さんをしのぶ

(昭和28年電気科卒)



平成24年5月3日突然の訃報にただ驚くばかりでした。ご遺族の胸中を拝察し、哀悼痛惜の念にたえません。三浦満夫先輩は東京秋工会の副会長(昭和62年から平成19年)・顧問として秋工の種々のイベント、主に母校創立90年記念・95周年・100周年・けやき会・秋高連・京都高校駅伝・幹事会などに参加し、円満で温厚な人柄で会の発展に永年に渡りご尽力と我々後輩をご指導していただきましたことに、心からお礼申し上げます。

三浦満夫先輩は満州奉天(現在瀋陽)に生まれ小学校6年生までの13年間を過ぎ終戦後に苦勞して引き上げてきました。由利中から昭和25年秋田工業高校電気科に入学し、バレーボール部に入部しました。それまでの県大会ベスト8止まりが3年の大会では、準決勝で惜敗し3位となり、相手(大館鳳鳴)が全国優勝した実力校でした。秋工バレー部の原動力となりその後、春高バレー全国大会に出場して伝統が継承されています。卒業後東芝府中に勤めバレー部で活躍しました。

詩吟・尺八同好会での思い出は、母校創立100周年記念祝賀会において、「祝秋工創立百周年讃賞実剛健校訓」を吟詠(合吟)披露するに当たり、春先は大島を望む今井浜海岸、夏は富士山を望む山中湖湖畔と相馬洋悦師範の下で合宿し、発声練習を特訓しました。今井浜では釣り同好会と合同合宿して、釣り上げた真鯛・黄鯛・カサゴの活造りをご相伴に預かり練習後の一杯(花より団子かな?)が格別でした。二次会はカラオケでイェライション(夜来香)を中国語で歌い和ませてもらいました。

詩吟昇段試験に合格して、雅号を三浦奉風(ほうふう)と名付けましたが、これは辛く別れた第二のふるさと(奉天)を望郷の思いで付けたと話しておりました。昨年末の詩吟練習では、声が良く出て

きており先生に誉められ、今年の昇段試験を楽しみにしておりました。また尺八の音も良く出てきており、今年の総会・懇親会で合奏するのを楽しみにしておりました。まことに残念でなりません。お別れに詩吟同好会として全員で弔慰式(和歌含め)を合吟してお見送りいたしました。喪主・妻京子様ご挨拶の中で、「夫、満夫をこよなく愛し幸せな生活でした。皆様も健康に留意して奥さんを大事にして生活してください」と、生前のご厚情に心より感謝とお礼を気丈に話され、万感胸に迫る思いをしました。

母校・東京秋工会を愛していた、三浦さんの意志を引き継ぎ幹事一丸となって伝統の質実剛健を守り発展と強化に取り組んでまいります。天から見守ってください。

長い間お疲れ様でございました。安らかにやすみください。
合掌

「奥様から」

この度は、急な知らせにもかかわらず駆けつけていただきありがとうございます。故人は(東京秋工会に)楽しく関わらせていただき、集まりから帰ると嬉しそうに皆様の話を聞かせてくれました。あの声を聞くことができないと思うと、とても寂しく悲しくもあります。いろんな病気を抱え込んでいましたが、彼らしい生き方でした。

東京秋工会 会長 三平 俊悦



誕生地の奉天にて
中央が三浦さん



山中湖浜合宿(詩吟同好会)
左から2人目が三浦さん



今井浜合宿(詩吟同好会)
右から2人目が三浦さん



秋工時代
バレーボール部



2009年12月 秋工駅伝
全国大会応援前日京都にて
右が三浦さん



詩吟大会(H22年10月2日)
右から2人目が三浦さん